

2025年入試

私大一般選抜志願者は増加するも、 入学者は総合型・推薦型の占有率アップ

2025年私大一般選抜志願者数の上位100校一覧掲載

旺文社 教育情報センター 2025年11月11日

2025年の私立大学一般選抜志願者は、近年の減少傾向から反転し前年より7%増加した。他方、入試方式別の入学者占有率で一般選抜はダウン。総合型・推薦型志向が継続している。

※本稿のデータは主に、弊社「入試結果調査(7月末)」「大学の真の実力 情報公開BOOK」ならびに、文科省資料による。

※一般選抜＝独自方式と共通テスト利用方式。※志願者数は延べ数。※通信制は含まない。

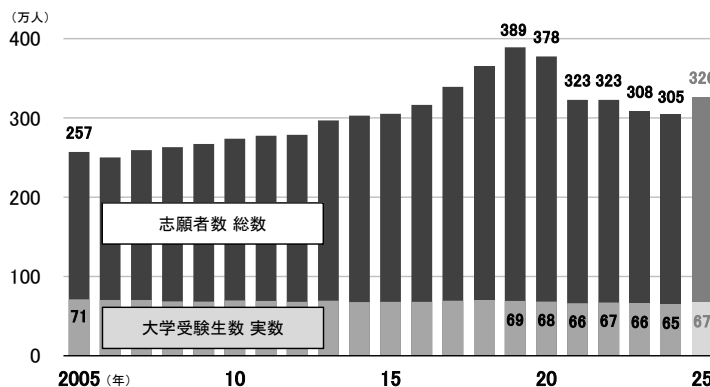
■変わる私大入試の全体像、受験生の志向

近年の私立大学の入試を概観

- ・2017～2019年:2016年からの「定員管理厳格化」が併願増を後押し。総合型・推薦型志向が高まる。
- ・2020年:翌年の入試改革が受験生を超安全志向に。14年ぶりに一般選抜の志願者が減少。総合型や指定校制推薦に受験生が流れる。
- ・2021年:入試改革元年＆コロナ禍。地元志向・安全志向、併願絞り込み顕著。一般選抜の志願者が大幅減。
- ・2022年:大規模校で志願者増、中小規模校は減。総合型・推薦型が合格者増。一般選抜を受ける層が厚みを失う。併願校数の絞り込みも。
- ・2023年:一般選抜は「ブランド校」で志願者増も、減少校は少なくない。総合型・推薦型志向は続く。
- ・2024年:受験生数の減少幅ほどには一般選抜の志願者数は減らず。近年の倍率低下から「チャレンジ志向」、コロナ明けから「大都市圏志向」が見られた。総合型・推薦型志向は継続。
- ・2025年:新課程入試。総合型・推薦型の志願者が急増。他方、私大一般選抜の易化傾向から「チャレンジ志向」、コロナ明けからの日常化で「大都市圏志向」も続いた。3年連続の共テ易化が「共テ利用方式」の志願者増に追い風。受験料の「併願割引」「定額制」の増加が目につく(→ 志願者数増加につながる)。

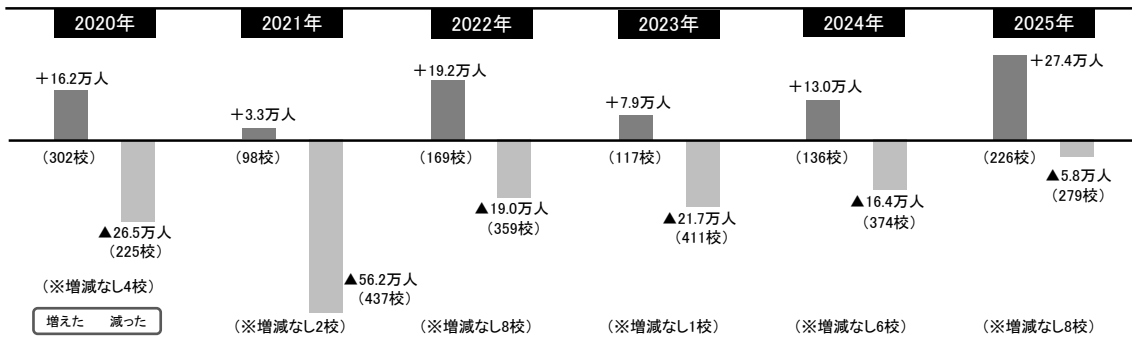
私大入試の変化が続いている。定員管理厳格化や入試改革、コロナ禍などの要因の積み重ねで総合型・推薦型志向が強固化。大学も総合型・推薦型を拡充。一般選抜では、志願者を集めている大学と苦戦する大学の二分化が見られる。

〔図表1〕 私立大学
一般選抜の志願者数の推移



※受験生数(実数/現役・既卒計):全日制・定時制高校、中等教育学校後期課程、通信制高校、特別支援学校高等部、高認合格者の大学受験生数合計。高認合格者は便宜上、共通テスト志願者数を大学受験生数とみなす。※2024年以前は文科省資料による。2025年は旺文社推計。

[図表2]私立大学 一般選抜志願者数 前年より「増えた・減った」大学数と、その増減人数



2024年・2025年を、入学定員の規模別に見ると……



2025年				入学定員		志願者数の合計		
4,000人以上	2024年	2025年	前年差	1,000人～2,000人未満	2024年	2025年	前年差	
増えた[18校]	1,266,485	1,364,624	98,139	増えた[44校]	557,604	641,329	83,725	
減った[2校]	83,037	78,002	▲ 5,035	減った[34校]	178,566	157,936	▲ 20,630	
2,000人～4,000人未満	2024年	2025年	前年差	1,000人未満	2024年	2025年	前年差	
増えた[21校]	451,731	521,738	70,007	増えた[143校]	156,436	178,066	21,630	
減った[10校]	137,847	129,049	▲ 8,798	減った[233校]	194,918	171,697	▲ 23,221	
				増減なし[8校]	3,973	3,973	0	

2024年				入学定員		志願者数の合計		
4,000人以上	2023年	2024年	前年差	1,000人～2,000人未満	2023年	2024年	前年差	
増えた[10校]	647,343	691,543	44,200	増えた[29校]	266,300	302,069	35,769	
減った[10校]	701,237	657,979	▲ 43,258	減った[50校]	475,907	437,419	▲ 38,488	
2,000人～4,000人未満	2023年	2024年	前年差	1,000人未満	2023年	2024年	前年差	
増えた[15校]	314,522	347,357	32,835	増えた[82校]	97,690	115,281	17,591	
減った[13校]	213,159	185,160	▲ 27,999	減った[301校]	295,233	240,977	▲ 54,256	
				増減なし[6校]	771	771	0	

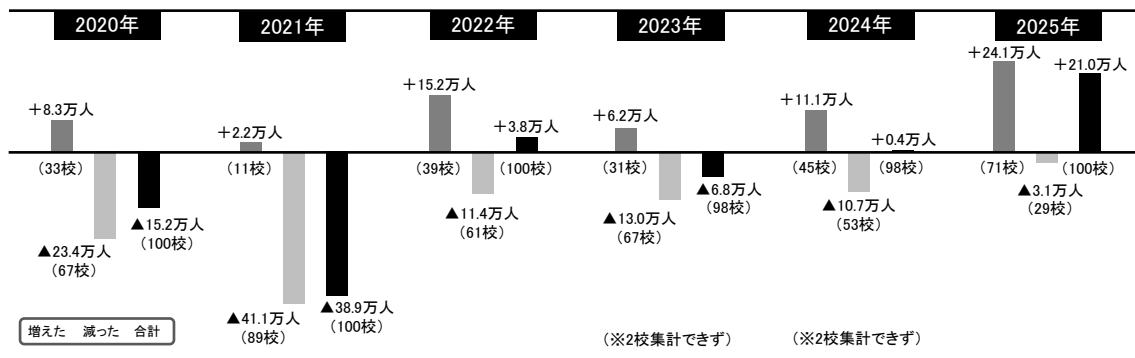
※旺文社調査による判明分。各年とも、当年と前年の志願者数が判明した比較可能な大学の数値の集計（2020年531校／2021年537校／2022年536校／2023年529校／2024年516校／2025年513校）。例：2025年は513校が、当年と前年の志願者数が比較可能。

■2025年は入学定員1,000人を境に一般選抜志願者の増減分かれる

図表2は一般選抜志願者数が「当年・前年とも」に判明した大学の、その増減状況を示したものだ。2020年は入試改革を翌年に控えた超安全志向で、総合型や指定校制推薦に受験生が流れ大規模校を中心に一般志願者を減らし、14年ぶりの減となった年だ。2021年は入試改革&コロナ禍の初年度。一般選抜の潮目が変わった年で、志願者数減少が著しい。2022年、反動は見られず前年並。2023年、2024年も減少人数が増加人数を上回った。2025年は18歳人口の増加で受験生数が3%増（推計）だったこと、チャレンジ志向や大都市圏志向が見られたこと、共テの易化、受験料「併願割引」「定額制」増加などによって一般志願者は増えた。

図表2下部の表で、志願者数の増減を大学の入学定員の規模別に見てみる。2024年は、入学定員2,000人を境に志願者の増減が分かれていたが、2025年はその境界が1,000人に下がった。全体では増加した一般選抜志願者だが、小規模校では志願者獲得が厳しかった状況がうかがえる。

〔図表3〕 私立大学 一般選抜志願者数 上位100校の翌年の増減(校数、人数の計)

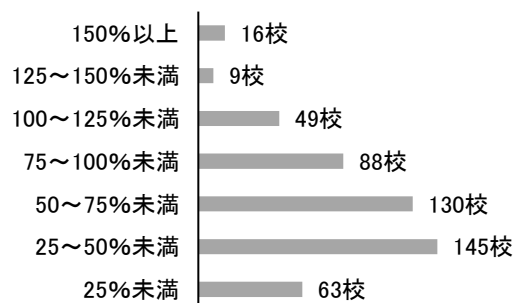


※旺文社調査による判明分。

※例：2025年が示す数値は、2024年の志願者数上位100校が、2025年に志願者が増えたか減ったかを追跡、その増減校数と人数の計。

〔図表4〕

2025年 私立大学 一般選抜志願者数を
2020年と比較した増減率の分布



※旺文社調査による判明分。

※2025年と2020年の志願者数が判明している500校の集計。

図表3は、志願者全体の8割以上を占める上位100校の、翌年の増減を集計したものだ。2021年の大幅減少が目につき、その後は志願者増、志願者減の大学に分かれていたが、2025年は71校で24万人増、減少した29校の減少幅も小幅で、上位100校で21万人もの志願者増となった。一般選抜で志願者を「集められる大学が、より集めた」という構図が見えてくる。

図表4では、2020年（入試改革前年&コロナ禍の直撃なし）と2025年の一般選抜志願者数を大学別に比較し、その増減率の区分別に大学数を示した（全体集計：2025年入試は2020年入試と比べて86%の志願者数）。集計500校のうち志願者数減426校。全体集計86%を下回ったのは378校。集計校の4割超208校は志願者数が半数未満になっている。

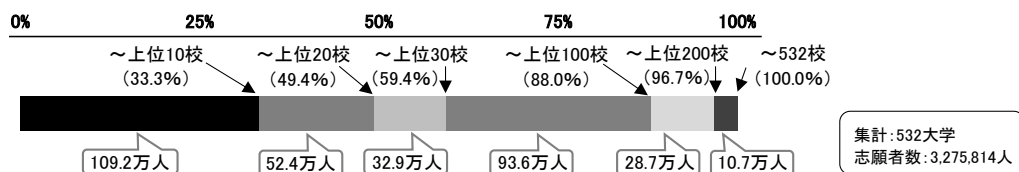
もともとの志願者数が少ないと増減率は高く算出されることを踏まえ、2020年一般選抜で志願者数2,000人以上だった大学220校をしてみる。2020年と比べて2025年に志願者が増えた大学は48校、減った大学は172校。志願者が半数未満になった大学は66校だった。2020年⇒2025年志願者数（比率）で例示すると、2.9万人⇒1.1万人（38%）、1.1万人⇒1.9千人（17%）、3.7千人⇒4百人（11%）など一般選抜を取り巻く状況が激変した大学もある。

■上位100校で志願者数の9割近くを、上位30校でも約6割を占める。

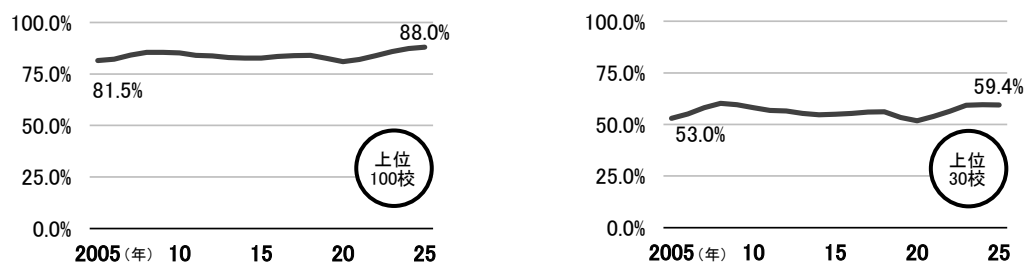
エリア別での志願者占有率は三大都市圏で9割

図表5では、2025年一般選抜志願者の総数に対する順位区分別の占有率を示した。志願者数上位の大学が全体に占める割合が極めて高い。

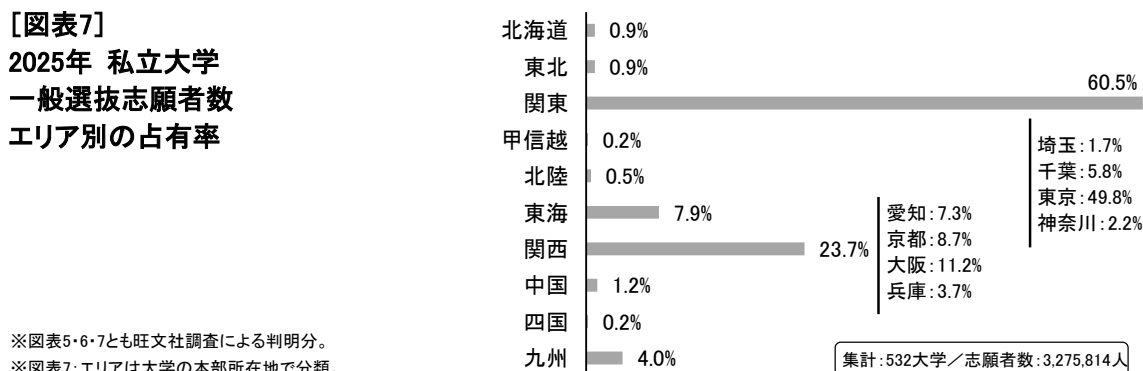
〔図表5〕 2025年 私立大学 一般選抜志願者数の順位区分別の割合



〔図表6〕 私立大学 一般選抜志願者数の上位100校、30校が占める割合の推移



〔図表7〕
2025年 私立大学
一般選抜志願者数
エリア別の占有率



志願者数上位100校、30校の占有率（図表6）は年によって上下はあるが、2020年を直近の底として以降、上昇傾向で集中化が進んでいる。

エリア別の志願者数の占有率（図表7）では、三大都市圏（埼玉・千葉・東京・神奈川・愛知・京都・大阪・兵庫）で9割（90.4%）となっている。東京の大学が突出しており、一般選抜志願者数の半数（49.8%）を占めている。

■一般選抜志願者は増加するも、入学者は少数派に。総合型・推薦型志向が定着。

各入試方式とも倍率は低下

図表8は、私立大学の入試方式別の入学者占有率を示したものだ。2025年一般選抜の志願者数は増加したが数値は「延べ数」だ。実際の大学入学者に占める入試方式別の割合は、一般選抜で低下が続き、総合型・推薦型が上昇。2025年の「総合型＋推薦型（公募制、指定校制、付属校・系列校）」での入学者は、全体の57.4%を占める。なかでも、入試時期の早い総合型志向の高まりが見られる（2021年、総合型の割合が急上昇して公募制推薦が減少。背景には、入試改革によって学校長の推薦が不要な自己推薦入試の総合型への移行もある）。

〔図表8〕 私立大学 入試方式別の入学者の割合の推移

	1年次 入学者数(人) ※有効回答 集計分	入試方式別 入学者の割合						
		一般選抜	総合型選抜 +公募制推薦	(総合型 選抜)	(公募制 推薦)	指定校制 推薦	付属校・系列校 推薦	その他
2016年	406,912	49.0%	21.0%	9.4%	11.5%	18.6%	6.8%	4.6%
2017年	412,526	47.8%	21.8%	10.0%	11.8%	18.7%	6.6%	5.1%
2018年	419,108	46.8%	21.9%	10.4%	11.5%	19.1%	6.9%	5.3%
2019年	419,059	45.4%	21.6%	10.6%	11.0%	20.7%	7.1%	5.2%
2020年	427,147	43.5%	21.4%	11.0%	10.4%	22.7%	7.3%	5.2%
2021年	402,056	41.4%	22.3%	13.2%	9.1%	24.8%	7.3%	4.3%
2022年	397,504	41.1%	24.0%	14.3%	9.7%	24.3%	6.9%	3.7%
2023年	392,181	39.7%	25.5%	15.8%	9.7%	23.6%	7.0%	4.2%
2024年	385,716	38.8%	26.4%	17.5%	8.9%	22.8%	6.9%	5.1%
2025年	403,757	37.8%	28.2%	19.2%	9.1%	22.6%	6.6%	4.7%

※『大学の真の実力 情報公開BOOK』(旺文社)のデータより作成。 ※一般選抜=独自方式と共通テスト利用方式。

※その他=大学の入試分類により、社会人入試、外国人対象の入試など。スポーツ推薦などを含む場合があるため、総合型・推薦型の割合が低めに出る傾向がある。

※有効回答：2016年476校/2017年479校/2018年477校/2019年479校/2020年491校/2021年475校/2022年480校/2023年468校/2024年477校/2025年470校。大学により、回答に際して「公募制と指定校制の合算で回答」「指定校制と付属校・系列校は非公表」などのケースがある。入試方式別の入学者の明細が不明の場合は、集計から除外。

図表9では各入試方式の倍率を2020年と比較した。2025年は受験生数増もあり、前年に比べると倍率アップが見られたが、5年前2020年との比較では、いずれの入試方式でも倍率は低下している。大学・学部の新設、既設学部・学科の定員増などで受け皿が大きくなったことが倍率低下につながっている。

8月、日本私立学校振興・共済事業団は、2025年の私大の入学志願動向に関する資料を公表（集計：私大594校）。私大全体の入学定員充足率は101.61%だった。前年の98.19%からは改善されたものの、入学定員割れの大学数は316校（集計数の53.2%）。入学定員充足率50%未満の大学も29校を数えた。大学が置かれている学生確保の困難な状況が見て取れる。

私立大は、さまざまな入試方式を、学生の多様性確保と学力担保のバランスを取りながら実施している。そのようななか、国が示す入試のガイドライン「選抜実施要項」により2026年入試から、一定の条件下で、教科・科目の学力検査を課す総合型・推薦型が「正式に可能」となり、首都圏で実施拡大が見られる。今後は、一般選抜を中心に学生確保する大学、総合型・推薦型を併用する大学、募集は総合型・推薦型がメインとなる大学に分化が進み、私大入試の構図が大きく変化しそうだ。

(2025.11 加納)

〔図表9〕 2020年と2025年の私立大学の入試倍率

		一般選抜合計	
		2020年 3.6倍	2025年 2.9倍
		独自方式	
		2020年 3.9倍	2025年 3.3倍
		共有利用方式	
		2020年 3.2倍	2025年 2.5倍
		総合型	
		2020年 2.2倍	2025年 1.8倍
		推薦型(公募制)	
		2020年 2.7倍	2025年 2.2倍

※一般選抜合計(2020年)、総合型(2020年)は文科省資料より算出。
他は旺文社調査より算出。
※倍率は、一般選抜「受験者数÷合格者数」、総合型・推薦型「志願者数÷合格者数」で算出。
※推薦型は公募制の倍率(一部集計に指定校制を含む)。

■2025年 私立大学 一般選抜(独自＋共テ)志願者数の順位別シェア(延べ数＝併願あり)

旺文社 教育情報センター2025.11

◆私立大学 一般選抜 志願者数

2025年志願者	2024年志願者
3,275,814	3,038,359
* 532大学	* 533大学
10位まで	10位まで
1,092,448	1,003,587
33.3%	33.0%
20位まで	20位まで
1,616,673	1,496,523
49.4%	49.3%
30位まで	30位まで
1,945,663	1,810,793
59.4%	59.6%
40位まで	40位まで
2,192,888	2,025,219
66.9%	66.7%
50位まで	50位まで
2,395,439	2,201,705
73.1%	72.5%
100位まで	100位まで
2,881,942	2,652,493
88.0%	87.3%
200位まで	200位まで
3,169,025	2,929,066
96.7%	96.4%

※「%」は私立大学一般選抜の志願者合計数(判明分)に対する割合。

◆2025年 一般選抜 志願者数上位100校(単位:人)

順位	<1位～30位>	志願者数	前年順位
1	千葉工業大	162,005	2
2	近畿大	157,526	1
3	明治大	115,323	3
4	東洋大	113,762	4
5	法政大	105,107	5
6	立命館大	96,917	6
7	早稲田大	95,938	7
8	日本大	92,232	8
9	関西大	79,835	9
10	中央大	73,803	10
11	龍谷大	63,452	11
12	立教大	62,829	12
13	東京理科大	57,039	14
14	関西学院大	56,236	13
15	同志社大	52,727	16
16	青山学院大	50,672	17
17	専修大	49,022	15
18	名城大	46,208	18
19	福岡大	45,908	19
20	慶應義塾大	40,132	20
21	芝浦工業大	38,507	22
22	東海大	37,013	21
23	東京電機大	36,647	23
24	武蔵野大	34,097	24
25	駒澤大	32,696	26
26	京都産業大	31,755	27
27	明治学院大	30,485	31
28	桜美林大	29,714	70
29	上智大	29,096	28
30	神奈川大	28,980	25

順位	<31位～65位>	志願者数	前年順位
31	中京大	27,337	30
32	東京都市大	27,041	29
33	甲南大	25,381	43
34	帝京大	25,212	33
35	國學院大	24,794	38
36	東京工科大	24,660	56
37	大東文化大	24,118	32
38	東京農業大	23,078	35
39	獨協大	22,816	37
40	学習院大	22,788	39
41	南山大	22,337	34
42	成蹊大	22,279	36
43	西南学院大	22,060	41
44	工学院大	20,884	46
45	愛知大	20,739	40
46	武蔵大	20,542	44
47	追手門学院大	20,476	45
48	愛知学院大	19,431	47
49	中部大	17,478	42
50	京都橘大	16,325	59
51	九州産業大	16,021	54
52	成城大	14,905	48
53	拓殖大	14,578	49
54	愛知淑徳大	14,430	63
55	順天堂大	14,177	52
56	文教大	13,879	53
57	神戸学院大	13,525	65
58	大和大	13,361	55
59	立正大	13,132	78
60	北里大	12,834	58
61	愛知工業大	12,026	60
62	大阪工業大	11,916	64
63	明星大	11,882	—
64	東北学院大	11,578	57
65	国際医療福祉大	11,536	62

順位	<66位～100位>	志願者数	前年順位
66	実践女子大	11,534	132
67	大阪経済大	11,370	71
68	麗澤大	11,256	—
69	摂南大	10,971	50
70	国土館大	10,885	66
71	大阪産業大	10,824	51
72	東京経済大	10,627	72
73	関東学院大	10,591	69
74	常葉大	10,406	68
75	広島修道大	9,461	61
76	日本女子大	9,137	75
77	福岡工業大	8,716	74
78	杏林大	8,602	67
79	名古屋学院大	8,468	85
80	東邦大	8,047	73
81	岡山理科大	8,012	90
82	大正大	7,944	77
83	武蔵野美術大	7,779	80
84	関西外国語大	7,686	95
85	多摩美術大	7,577	79
86	北海学園大	7,370	86
87	久留米大	7,330	88
88	昭和女子大	7,195	76
89	北海道科学大	7,142	82
90	亜細亜大	7,127	96
91	名古屋外国語大	7,079	83
92	藤田医科大	6,626	84
93	昭和医科大	6,360	104
94	佛教大	6,202	94
95	武庫川女子大	6,145	86
96	玉川大	5,999	91
97	大阪経済法科大	5,594	89
98	松山大	5,566	100
99	桃山学院大	5,548	107
100	金沢医科大	5,547	97

<備考>

※一般選抜(独自＋共テ) 志願者数判明分(旺文社調査:7月末現在)。

※特別入試等の志願者数を一般選抜の志願者に含む大学は除く。

※非公表の学部・学科、入試方式等がある大学は除く。

©Obunsha2025